

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

別紙様式2(高)

目指す学校像		・向上心を持ち自分に適した進路を実現できる学校 ・学習した知識や技能を基に資格等の取得ができる学校 ・ICTを効果的に活用できる学校 ・ルールやマナーを大切にする学校 ・特別活動が充実した学校 ・地域に根ざした信頼される学校 ・働き方改革を推進する学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
<成果> 普通科、機械科、情報技術科、商業科の4学科(令和3年度より普通科、機械・情報技術科、商業科の3学科)を有する特長を生かし、幅広い選択科目を設定したり課外活動を充実したりして、資格取得や個々の希望進路の実現に力を注いでいる。 <課題> 令和3年度入学生から、機械科、情報技術科の2学科が、機械・情報技術科の1学科になったことに伴い、教育課程やコース制を円滑に運営することが求められる。 また、本校の教育目標である、次の1～4を達成するために、地域や関係機関との交流を深め、進学・就職と多岐にわたる進路希望の実現を継続していくことが必要である。 1 一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲や創造性を育む。 2 豊かな人間性や社会性を育む。 3 健やかに生きるための丈夫な身体を育む。 4 産業社会の発展に貢献できる力を育む。	教育課程の充実	① 指導方法の改善や学校設定科目(サイ発見・シン発見)に係る取組の充実を図ると共に、令和4年度入学生から適用された新学習指導要領において、生徒の基礎学力の定着と向上、進路目標の達成に対応できる教育課程の構築を図る。 ・ 学校設定科目の効果的運用のため、入学生の実情を把握し、現状に合わせた習熟度・少人数学習を行う。 ・ 各学科それぞれの特色が最大限に発揮できる教育課程の実現を図る。 ・ 多様な進路希望に応えられる、柔軟性のある教育課程を編成する。	B			
	学習指導の充実	② ICTを効果的に活用し、分かる楽しさが実感できる授業を展開することで、生徒の主体的な学びを引き出し、進路目標に応じた学力と専門性を身に付けさせる。 ・ 授業でICTを活用し、学習内容の理解促進を図り、学ぶ意欲の向上を図る。 ・ 確認テスト、実力テストなどで理解度を確認し、補習などを通して個に応じた指導を展開することにより、基礎・基本を確実に定着させる。 ・ RPDCASサイクルにより、生徒の学力を適切に評価し、学習課題を明確にすることにより、学習意欲の向上を図る。 ・ 発展的な問題にも取り組ませるなど、大学等への進学希望を持つ生徒に対する個別指導を充実させることで、さらなる学力向上を図る。 ・ 生徒の実態に応じたICT教材の研究、交互の授業参観、教科内の連携・研修等を通して、学習指導の工夫や質的向上を図る。	B			
	進路指導の充実	③ 三年間を見通したキャリア教育を推進することで、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成し、多様な進路目標の実現を図る。 ・ 聞く力、表現する力、進路実現のために必要な態度やマナーなどを身に付けさせる「3年間を見通した指導体制」を構築し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・ 外部講師等の人材を有効に活用するとともに、インターンシップ・デュアルシステムや進路説明会に生徒を主体的に参加させることにより、進路意識の高揚を図る。 ・ 向学心を高め、計画的かつ継続的な課外指導を実施することで、大学進学にも十分対応できる学力を身に付けさせる。	B			
	生徒指導の充実	④ 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、人間としての在り方生き方に関して考察を深めさせることで、豊かな心の育成を図る。 ・ 生徒面談、アンケート調査、家庭訪問、ホームルーム活動の工夫を通して生徒理解に努める。 ・ 頭髮・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め、基本的生活習慣の確立を図る。 ・ 挨拶・マナーを確実に身に付けさせ、規範意識や社会性の育成に努める。 ・ ボランティア活動を促し、人間としての在り方生き方を考えさせることで、社会の一員として主体的に生活することができるようにする。 ・ 特別指導を充実させ、問題行動の未然防止及び再発防止を図る。	B			
	特別活動の活性化	⑤ 生徒会活動・部活動等の活性化を図り、充実感・達成感を味わえる、明るく活気ある学校づくりに努める。 ・ 1年生全員に部活動入部を促し、学校の活性化を図るとともに、規律ある生活態度や自律性に富む生徒の育成を図る。 ・ ホームルーム活動、委員会活動や生徒会活動の充実を図り、生徒一人一人が自主的・主体的に参加できるよう支援する。 ・ ポートフォリオを充実させ、生徒の学校内外での活動や学びのプロセスを振り替えられるキャリアパスポートを作成すると共に、その活用を通して「自分らしい生き方」を模索する生徒の支援をする。 ・ 地域の行事やボランティア活動にも積極的に参加するよう生徒を促し、地域との連携を図りながら生徒の活躍する姿を地域に発信していく。	B			
	地域連携の推進	⑥ 地域との密な連携と交流を推進し、生徒の活躍の機会を上げるとともに、生徒が活躍する姿を積極的に発信することで、地域から信頼され、期待される活力ある学校を目指す。 ・ ホームページの充実を図り、保護者や地域、中学校等への積極的な情報発信に努める。 ・ 学校外からの声も積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育活動を推進する。	B			
	働き方改革の推進	⑦ 業務の役割分担や適正化、ICTの導入を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善に取り組み、時間外勤務の減少を目指す。 ・ 業務の役割分担(基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが、必ずしも教師が行う必要のない業務、教師の業務だが、負担軽減が可能な業務)について見直す。 ・ 勤務時間の管理や適正な勤務時間の設定(勤務時間の把握、登下校指導・部活動・学校の諸会議等の適切な時間設定、学校閉庁日)を行い、ICT教材の共有化を進め、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。	B			
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 向上心を持ち、主体的に学習や学校生活に取り組み、協働して地域社会の発展に貢献できる人材		B	B	今年度も概ね地元企業に就職内定をいただいている。今後も引き続き、向上心や主体的に学習に取り組み姿勢の涵養が主な課題である。

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 3学科の特色を生かすとともに生徒の幅広い学習ニーズに応え、ICTを効果的に活用した学習活動とキャリア教育により、就職から大学進学まで生徒一人一人の多様な進路希望を実現		B	今年度入学生より、新教育課程となったため、ICT教育の更なる推進と教科横断的な学習の定着が主な課題である。 昨年度同様、本校への志願者数を増やせるかが主な課題である。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 学校や社会の規範を守り、多様性を尊重し認め合いながら日常生活を送ることができ、授業はもとより、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒		C		
各教科		基礎学力の向上と定着	学習目標の具体的提示を行い、指導方法と学習評価を見直し、基礎学力が定着する授業を行う ①②	B	基礎的な資質・能力と、学力の3要素(知識・技能/思考力・判断力・表現力/主体性・多様性・協働性)の向上。ICTの活用。	
国語	ICTの活用と主体的・対話的で深い学びの実践	ICT(タブレット・電子黒板)を活用した学習や、ペアワークやグループ学習といった協働的な学習を授業に取り入れることで、深い学びを実現し、資質・能力の向上を図る ②	A			
地理歴史	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②	A	B	新課程の移行期に伴い、基礎学力の定着と思考力・判断力の育成に繋がるICTを活用した指導方法の工夫・改善。	
	主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図る ②	B			
公民	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②	A	B		
	主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図る ②	B			
数学	基礎学力の定着	個に応じた適切な教材・課題を用意し、反復練習・振り返りを通して、基礎学力の定着を図る ②	B	B	数Iにおける習熟度別授業は、学力定着や学習意欲の面でクラス別展開よりも高い効果が得られている。可能であれば数IIにおいても実施をしたい。一方、探究活動や課題学習については、調べ学習の域を出ない生徒が多く、思考力の醸成までには至っていない現状。働きかけの工夫が今後の課題。	
	習熟度授業による学習支援	習熟度でクラスを編成し、個に応じた学習支援を行い、基礎学力の向上を図り、自己肯定感を高める②	A			
	学びに向かう態度の醸成	探究活動やICT機器の活用など、単元に応じた様々な働きかけを行い、学習意欲を高める ②	B			
理科	基礎学力の向上	理論の有用性に気付かせ、主体的に学ぶ姿勢を向上させる授業実践に努める ②	B	B	すべての授業で実験もしくは観察を取り入れ、生徒自ら考えさせる機会を設けた。しかし、探究活動やグループワークについては、調べ学習の域を出ない生徒が多く、深い学びには至っていない。次年度は、科学的な思考力を育成させる実験・観察を取り入れる必要がある。	
	実験・観察の充実	生徒の意欲・関心をさそう実験・観察を積極的に取り入れた授業展開を図る ②	A			
	主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	調べ学習、グループワーク、振り返り等の実施や、ICT機器の適切な活用により、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す ②	B			
保健体育	体力の向上	体力の向上のための授業内容の工夫・改善と体力テストデータの活用を図る ②	C	B	令和4年度体力テストの結果よりA・B級(前年比)2.8%減、D・E級(前年比)10.5%増 全体的に運動不足と言わざるを得ない。総合評価(D+E)の生徒をCに上げ、Cの生徒をB以上にあげられるように、毎授業時間の準備体操後に、ランニングや種目にあった柔軟運動を取り入れ、体力づくりを継続的に実施し、体力向上を図っていく。	
	基礎基本技能の定着	個・グループの実態に応じた指導方法の工夫と反復練習による技能の定着を図る ②	B			
	楽しく協力して行う、スポーツの理解と教え合う仲間とリーダーの育成	グループ学習や対戦型の授業を通して、生徒が健康かつ安全に楽しめるルールの工夫、及び「教え合い学習」の促進とリーダー育成のための授業内容の工夫を図る ②	B			
	運動器具・設備等の安全管理と確保	体育用具・設備の安全管理の徹底を図る ②	A			
芸術	基礎・基本の定着	器楽演奏による読譜力の育成と基礎理解の定着を図る(音楽) ②	B	B	生徒の実態や興味関心に応じた課題設定によって、主体的に学習に取り組み表現する姿勢の育成を目指す。	
	興味・関心の向上	色彩練習による美的感覚と鑑賞能力の育成を図る(美術) ②	B			
		多様な作品の学習によって音楽への興味関心と自己表現力の向上を図る(音楽) ②	C			
	作品の鑑賞及び制作による自己表現力の育成を図る(美術) ②	B				
外国語	基礎学力・基本事項の定着	生徒への声かけと根気強い反復指導により基礎・基本の定着を図る ②③	A	B	ALTの先生に教科横断型の授業をお願いする。教科書改訂に伴い、ICTを活用した授業を増やす。	
	興味・関心の向上	ICTなど教育機器を適切に活用し、生徒が興味を持てる教材の作成と活用を図る ②③	B			
	個に応じた学習指導の充実	生徒の実態や進路希望に応じたきめ細かい指導の実践を図る ②③	B			
家庭	基礎力の定着	生徒の実態に応じた授業展開の工夫ときめ細かい指導の実践を図る ②	B	B	実習の作業効率を上げるために、ICTの活用方法を引き続き模索していく。	
	実験・実習等の教育環境の充実	実験・実習・演習等を中心とした授業の展開と、そのための教育環境の充実を図る ②	B			
各教科	情報	パソコンの基本的な操作の習得	コンピューターに関わる基本的な用語及び知識の理解と定着を図る ①	B	B	プログラミング的思考の定着に関してより効果のある教材を活用して指導の工夫を図る
		ネットワーク利用のモラルの定着	生徒の興味・関心のある教材を活用した指導の工夫を図る ①	B		
	機械・情報技術科(機械系)・機	機械工業の基礎技能の向上	学科統合による機械系に興味を持たせる授業内容の工夫を図る ①②	B	A	令和5年度は、学科統合の完成年度である。教員数削減に対応し、安全管理・教科指導の質を落とさないことを徹底していきたい。また、タブレット・電子黒板を有効に活用し機械に関する
		安全の確保や事故の防止	授業や補習により、資格取得の支援に努める ③	A		
		興味・関心を引く授業実践	電子黒板やタブレットを活用して、生徒が興味関心を持てる授業の充実を図る ②	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

機械・情報技術科(情報技術系)・情報技術科	座学と実習との連携	座学内容と実習内容との連携の強化を図り、分かる授業を展開する。	①②	B	A	る興味・関心をもたせる工夫をしたい。 令和5年度は、学科統合の完成年度である。教員数削減に対応し、安全管理・教科指導の質を落とさないことを徹底していきたい。また、座学と実習内容の連携をより一層強化していきたい。
	実践的な能力と態度の育成	座学と実験・実習を横断的に取り入れることで基礎学力の定着と、集中して話を聴く姿勢の育成を図る	②④	A		
	各種資格の取得	授業や補習による資格取得の支援に努める	②③	B		
	興味・関心を引く授業実践	パソコンや電子黒板、タブレットを活用して、生徒が興味関心を持てる授業の充実を図る	①②	A		
商業	コミュニケーション能力の育成	販売実習等の体験的な学習の充実のため、授業の工夫や地域連携を図る	②③⑥	A	A	今年度行った中学校での金融セミナーの開催等を来年度は増やし、校種を越えた連携に力を入れていきたい。
	資格取得の推進	課外指導の充実を図るため計画的に実施し、検定試験に関する情報の周知徹底を行う	②	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
教務	校務全般の円滑運営を図る	中学校訪問等を通して、本校の取り組みを積極的に広報し、生徒募集の拡充を図る	⑥	B	「令和の日本型学校教育」にある「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と、ICT教育の更なる推進を図る。 また新学習指導要領において求められている「主体的・対話的で深い学び」による授業改善、その理念の実現のために、「教科等横断的な学習」の実現も図っていく必要がある。今年度も「教科等横断的な学習」の実現に向けた様々な検討・工夫が行われており、次年度以降さらに発展させていく必要がある。 教職員の働き方改革を進める上でも、教材のデータベース化と共有化をより一層進め、ペーパーレス化も引き続き推進していく。 行事の精選に本格的に努め、授業時数の確保と行事のバランスを図る。
		各校務分掌間の情報交換を密に行い、適切な連絡・調整に努める	②⑦	B	
		各分掌の企画の把握と連絡・調整を的確に行い、円滑な学校運営に努める	②	B	
	行事等の円滑な企画・運営	教務部内の業務を従来以上に複数人で分担し、かつ情報共有を密にし、行事の円滑な企画・運営に努める	②	B	
		年間・月間計画の企画・立案と適切な変更・調整に努める	②⑦	B	
	成績不振者等への適切な対応	定期考査の事前準備を適切に行い、生徒への周知徹底を図る	②	B	
		成績不振・遅進者に対する計画的な課外指導等を、教科・学年と連携し、年間を通して指導する	②	B	
		欠課時数の多い生徒に対して、適切な指導に努める	②	B	
		成績や欠時に関して、学年と連携し、生徒及び保護者等へ早期に対応をする	②	B	
	適切な情報管理	成績処理と事務処理の効率化を図る	①②	B	
ICTを活用した授業の充実を図れるよう、電子黒板やタブレット端末等の機器管理や研修の充実を努める		①②	B		
ホームページなどを活用し、外部への情報提供の充実を図る		①～⑥	B		
働き方改革の推進	校内ネットワークの保守管理及び個人情報の管理の徹底を図る	①～⑥	B		
	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行を主眼とした、計画的な立哨指導等の実施を図る	④	A	遅刻指導については、遅刻カードを有効に活用し段階に応じた指導を行っているが、減少には至っていない。次年度は、個に応じた継続的な指導を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。 服装に関する規定を生徒・保護者・教員で話し合い見直し、変更した。今後も、グローバル化や多様化の観点から、必要に応じ、生徒や保護者との議論を通して適宜見直しを図る。 今年度は、交通に関する事案が多く、自己指導力の成長を図るための講話や教室などの事業を積極的に実施してきたが、定着には至らなかったことなどに課題が残る。
		遅刻を防止する「遅刻カード」の利用及び指導の徹底を図る	④	B	
		服装・頭髪に関する教職員の共通理解と、家庭との連携の徹底を図る	④	A	
	規範意識の向上	規範意識の確立やマナーの向上を目指し、全校集会・学年集会・HR等を活用した指導を促進する	④	B	
		規範意識の向上を目指し、ボランティア活動及び特別指導の内容の充実を図る	④	B	
	安全で充実した学校生活の実現	問題行動や交通事故の未然防止を目指し、学校内外における計画的な巡視を実施する	④	B	
自転車・バイクの点検と実技指導を計画的に実施する		④	B		
社会の変化に対応する能力の育成	携帯電話・スマートフォン、SNS等の正しい利用方法の指導の徹底を図る	④	A		
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	A		
	進路意識の高揚	生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める	③⑥	B	3年間を見通した計画的なキャリア意識養成を実施するために、進路指導部と各学年どおしの連携が重要である。今年度は各学年にCSの講師依頼をお願いすることになったが学年を通しての連携に不安が残った。また学年の負担を軽減するために、業者を利用しセミナーを活用していければと思う。またホームページとの連携も継続し、就職活動に生徒への就業感を持たせていきたい。進路資料のペーパーレス化で閲覧方法の改善を図っていければと思う。 企画広報部の再編により、業務内容について負担が多くなっている。次年度では効率化と見直しを図りたい。
生徒面談の励行に努める		②③④	B		
進路適性検査・職業適性検査を実施し、分析結果を指導に活かせるよう情報提供に努める		③	B		
キャリア教育を計画的に実施する		③	A		
ジョブナビセミナーにおける社会人講師の積極的な活用を推進する		③⑥	A		
進路資料閲覧環境の充実を図る		③	C		
キャリアアップ・ガイドブックを発行するとともに、活用方法の工夫を図る		③	B		
進路決定報告会を計画的に実施する		③	B		
事前・事後指導の工夫を通じ、効果的なデュアルシステムを実施する		③	B		
進学率の向上		オープンキャンパスへの参加を奨励していく	③	B	
	総合型選抜・AO入試・推薦入試に向けた面接指導を計画的に実施できるよう学年と連携する	③	B		
	進学模試・進学課外への参加呼びかけに努める	②③	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

就職内定率の向上	職業安定所と密に連携する（所長および学卒担当講話・ハローワーク訪問等）	③⑥	A	B	多様化した生徒に対して柔軟に対応していくため、アセスメントを的確かつ適切に行い、高校生活を充実したものにできるような支援体制を構築していく。 また、感染症予防の観点から、保健日より等を活用して、基本的な生活習慣や予防方法の周知をし、自己の健康に対する意識を醸成していく。	
	WEB 求人を活用した求人情報の提供に努める	③	B			
	卒業生の就職先企業訪問及び求人要請訪問を計画的に行う	③⑥	A			
	生徒の応募前職場見学を励行する	③④	A			
	模擬面接指導を計画的に実施できるよう学年と連携する	③④	A			
	就職合同面接会への参加と事前・事後指導の徹底を図る	③	A			
学力の向上	学習実態調査の実施と分析結果を、学年やHRでの指導に活かせるよう情報提供に努める	②③	B			
	宮トレによって「できる」感覚を育成し、学習に向かう気持ちの醸成を図る	②③	A			
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	C			
保健厚生	一人ひとりの個性を生かし学ぶ意欲や創造性と生きるための丈夫な身体を育む	生徒の実態に応じた、専門家による学年別性教育講話の実施を図る	⑥			A
		専門の外部講師による薬物乱用防止教室・喫煙防止教室の実施を図る	⑥			A
		心身の健康状態の把握に努めながら、適切な指導・援助に努める	⑥			B
		マラソン大会・修学旅行における事前の保健調査・健康相談等による事故防止の徹底を図る	⑥			A
		保健便り等を活用し、生徒及び保護者の健康意識の高揚を図る	⑥			A
		多様化した生徒へ対応する支援体制の構築を図る	⑥			C
	健康・安全に関する環境の整備と校内の美化を地域と連携し努める	緊急時に備えた避難訓練を、地域と連携して実施する	⑥			A
		施設設備等の安全点検と管理徹底を図る	⑥			A
		冬季の健康管理、ストーブの取扱及び換気について指導・管理の徹底を図る	⑥			A
		清掃用具等の整備と校内外の美化活動の推進を図る	⑥	B		
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	A			
特別活動	ホームルーム活動の充実	生徒の実態に応じた年間指導計画の作成に努める	⑤	B		
		クリーンアップ作戦の企画・立案を計画的に進めていく	⑤	A		
	生徒会活動の充実	生徒が自主的・主体的に活動するための支援に努める	⑤	C		
		生徒の実態に応じた諸行事の企画・立案に努める	⑤	B		
	学校行事の充実	各種委員会活動の充実に向けた支援に努める	⑤	B		
		関連各校務分掌との適切な連絡・調整を図る	⑤	B		
		スポーツフェスティバルの円滑な運営のために、適切な企画と運営について工夫改善を図る	⑤	B		
		芸術的学校行事に向けた適切な企画・運営を図る	⑤	A		
	部活動の充実	ポートフォリオ、キャリアパスポートを作成し、メタ認知を高める等の有意義な活用法を図る。	⑤	C		
		指導内容・方法について工夫・改善を図る	⑤	C		
働き方改革の推進	活動環境の整備・充実を図る	⑤	B			
	ホームページ等による活動状況PRの充実を図る	⑤⑥	B			
図書館	図書館利用の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	C		
		委員会活動の活発化と図書館利用行事の企画・運営に努める	⑤	C		
		図書館環境の整備に努める	②	B		
	読書活動の推進	各教科・学年との連携を密にし、利用推進を図る	②	C		
		興味関心を惹きつける選書をし、読書意欲の向上を図る	③	B		
		図書や資料に関する適切な情報の提供に努める	③	B		
視聴覚教育の推進	「朝の読書週間」の円滑な実施を図る	⑤	B			
働き方改革の推進	視聴覚教材の充実を図る	②	C			
渉外	PTA活動の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	A		
		保護者と連携し情報交換に努めることで、PTA 総会や定例の評議員会を企画し、会議の円滑な運営を図る	⑥	A		
		PTA 入会式や、支部活動の運営を通して、保護者の本校 PTA に対する理解を深め、教員との強固な協力関係を築く	⑥	B		
		PTA だよりの発行や、ホームページへの記事掲載を通じて、広報活動の充実を図る	⑥	B		
	同窓会活動の企画・運営	ICT を活用し、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を推進する	⑥⑦	B		
働き方改革の推進	同窓会入会式の運営に加え、同窓会員との情報交換、連絡、調整に努める	⑥	C			
第1学年	基本的な生活習慣の確立	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑦	B		
		引き続き、生徒や教職員の希望に沿った資料の収集につとめ、利用を推進する。				
		PTA の組織、運営、規約などの合理的観点から見直しを図る。 可能な限り、保護者等との連絡を、デジタル化する。 行事、業務の精選を図り、働き方改革を進める。				
第1学年	基本的な生活習慣の確立	あいさつの励行と、規律ある生活態度を身につけさせる	④	A		
		集団生活におけるルールを守らせ、公衆道徳や公共のマナーを向上させる	④⑥	B		
		情報共有を密に行い、生徒一人ひとりの実態を正しく把握し、問題行動の未然防止・早期発見・早期指導に努める	④	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	整理整頓、清掃を徹底し、教室環境の整備・美化に努めさせる ④	A	<p>をさせるため、次年度は例年の2年次よりも進路について考える機会を多くとりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育や学校生活において、受け身的に行動することはできるが、関心や問題意識を持って行動すること、様々な見方や考え方があることを知り認め合うこと等が不足している。探究活動をとおり、多様性を享受し尊重する心や多角的に物事を捉え行動する意識を育みたい。
		基礎学力の重要さを理解させ、日々の授業や宮トレを大切に、学びに向かう態度や基礎学力を身につけさせる ①②	B	
		教科担当者との密な連携を通して、成績不振の生徒に対して個に応じた指導を行う ②	A	
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦するよう勧めるとともに、合格・取得に向けたサポートを行う ②③	B	
	進路指導の充実	進路関連行事等においてその意義を理解させ、当事者意識をもって積極的に取り組む態度を身につけさせる ③	C	
		進路関連行事を通して、様々な進路・仕事についての理解を深めさせ、適切な進路選択のためのサポートを行う ③	B	
		「今⇄未来手帳」を活用し、スケジュールや情報の整理・管理をする習慣を身につけさせる ③	B	
	人間力の育成	部活動全員加入・3ヶ年継続を推進し、その活動を通して継続する力や忍耐力、責任感を育む ⑤	B	
		全体の一員であることを理解し、TPOを弁えた行動をとれるよう、様々な場面で指導を行い「公共心」を育てる ③④⑤	B	
		探究活動を通し、社会に関心を持ち、広い視野で物事を捉え、自身の考えを表現する力を養う ①②③	C	
相手の話を「聞く力」、他者の意見を尊重し互いに高めあう「相互啓発力」を育む ③④		B		
ICT活用能力および情報リテラシーの育成	情報収集や発信の場面において、情報を適切に判断したり、発信したりするための能力を育てる ②④	B		
	タブレット端末を活用することで、「情報収集」・「整理」・「分析」をする能力を育てる ②	B		
	電子黒板の各種機能を活用することで、授業に積極的に参加する主体性を育てる ②	B		
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑦	B		
第2学年	基本的生活習慣の確立	挨拶や礼儀を守ることの大切さを理解することを通して、自律した行動を促す ④	B	<p>・保護者との情報共有を密に行うことと細やかな連携体制を維持すること。</p> <p>・生徒向けの希望調査やアンケートについてはデジタル化を進めてきた。保護者向けの通知文や承諾書等についてもできるものからデジタル化していきたい。</p> <p>・問題行動の早期発見と未然防止に努めながら、生徒に関する細やかな情報の共有や教員間の連絡体制を引き続き維持すること。</p>
		集団生活におけるルールを主体的に考える力を育み、公衆道徳や公共のマナーを向上させる ④	C	
		学年の教員間や保護者と教員間で、生徒の共通理解を図り、一人一人の特質を適切に把握することで、問題行動の未然防止・早期発見・早期指導に努める ④⑥	C	
		清掃を徹底し、校内環境の整備・美化に努めさせる ④	B	
	基礎学力の向上と情報リテラシーの向上を図る	宮トレや「サイ発見」を通して、基礎的な学力の定着を図る ①②	B	
		「今未来手帳」の活用を通して、スケジュールや情報管理の習慣を身につけさせる ②④	B	
		教科担任と密接に連携し、個に応じた指導の充実や、成績不振の生徒に対しての早期の指導を行う ②③	B	
		進路目標実現のため、資格や検定試験の取得を積極的に勧める ②	B	
		ICT機器の活用を通して、情報を適切に活用する基礎的な知識を習得する ②③	A	
	進路指導の充実	進路行事やガイダンスを通して、生徒の進路目標の選択意識向上に努める ②③	B	
		「シン発見・進路探究基礎」の授業において幅広くキャリアや社会的な資質・能力の習得について考えさせ、同じく「学力向上基礎」のコース別学習を通して、進路実現に向けた学力の向上を図る ①②③	B	
		インターンシップを通して、望ましい勤労観・職業観を育成し、進路意識の高揚を図る ③⑤⑥	B	
	豊かな人間性の形成	修学旅行での平和学習や事前・事後学習、または奉仕活動等を通して、平和を願う心や誰かのために行動できる奉仕精神を育てる ⑤⑥	A	
		加入している部活動や日頃の学校生活を通して、継続する力や忍耐力を育てる ⑤⑥	B	
		「道徳プラス」の授業を活用して、自己や他者を大切にす価値観を育て、モラルスキルの向上を図る ②④⑤	B	
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑦	B	
第3学年	基本的生活習慣の確立	最上級生としての自覚を持ち、自律した生活態度の確立に努める ④	C	<p>・進路指導の経験によって得られた知見を次の学年といかに共有するか。</p> <p>・保護者との連絡を密にして、情報をいかに共有するか。</p>
		挨拶の励行、適切な服装、時間厳守、環境美化など社会的規範に基づいた生活習慣の向上を図る ④⑤	C	
		公共のマナーや礼儀、ルールに配慮した言動が取れるように社会的道徳観の育成を図る ④⑤	C	
		教員間や保護者との連携を通して、生徒の特質を把握し、問題行動の未然防止、早期指導に努める ④⑥	B	
	基礎学力の向上と資格取得	授業や学びに向かう力・態度の育成に取り組み、課題や提出物の期限厳守の指導に努める ②	B	
		授業に対する生徒の理解力の向上および家庭学習の習慣化に努める ②	B	
		個々の生徒の学習状況と課題を把握し、面談を通して適切な助言と指導に努める ②③	B	
		進路実現につながる検定・資格取得への積極的な取り組みを促す ②③	B	
	進路指導とキャリア教育の充実	生徒や保護者との面談を密に行い、適切な進路情報を提供し、一人一人の進路実現を目指す ③⑥	A	
		「宮トレ」や「シン発見・学力向上II」を通じ、個別の進路指導に応じた、基礎学力・応用力の強化に努める ①②	C	
		「シン発見・進路探求応用」を通じ、進路実現につながる情報収集や面接練習、履歴書・作文作法などの個別指導を行うことで課題対応能力の向上を図る ①③	B	
		ポートフォリオの作成や手帳でのスケジュール管理を通して、自己管理能力やキャリアプランニング能力の向上を図る ③⑤	C	
豊かな人間性の形成	「シン発見」や「LHR」を通じ、人間関係形成能力や望ましい職業観・勤労観の育成を図る ①③	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和4年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		ホームルーム活動や、学校行事における取り組みにおいて、生徒の自律性を促し、生徒同士の共感的な人間関係作りを行う ④⑤	B	
		日々の学習や進路実現に向けて踏むことができた様々なスモールステップを通して、自己肯定感の育成を図る ②④	B	
		進路実現に向けての様々な活動を通して、社会的資質・能力の向上を図る ③④	B	
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑦	B	